

## 長野県食育推進計画評価策定委員会（第1回）のまとめ

内 容	委員から出された課題	まとめ及び方向性
1 食を育む環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親世代への食の関心を高める           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入生の保護者の中には、小学校で野菜を一切食べさせなくてよいと言ってくる親がいる。共稼ぎで忙しく、食に時間をかけることが難しい家庭が増えていると感じる。保育園（幼稚園）から次の社会へつながっていけるよう、指導方法を工夫しながらバランスよく食べさせるということが必要である。（小学校長会）</li> <li>○ 未満児の入所が増えてきている。保育園は、共稼ぎの家庭でないと受け入れていない。核家族で共稼ぎの家庭は忙しい。離乳食の栄養相談も多く、食べさせたことがない食品も多い。アレルギーも多いので、アレルゲンを除く給食の対応もしている。いろんな面で食が変わったと感じる。（保育連盟）</li> <li>○ 朝食の指導を中学校1年生にしている。2年生になった時にも改めて、朝食の様子がどうなのか、食べているのか食べていないのか、また、食事のバランス等について聞いているが、あまり改善がみられない。子どもだけでなく、どのように親を変えていくかが大事。また、親が食を担うということを、意識してもらうことが大事だと痛感する。子どもには、指導の際に「お家の人によく話してね」と言うが、親へは伝わっていない。子どもだけがわかっていても改善できない。 中学校に入学する際にも、保護者と小6を対象に、まずは「朝食を食べてきましょう」と話をするが、実践されていない。どうやって実践に結び付けていくかということが課題である。（栄養教諭・学校栄養職員部会）</li> <li>○ 子どもの教育もそうだが、親の教育をしなければいけないと思う。添加物を気にせずに、子どもに食べさせているという状況がある。ジャンクフードみたいなものを小さいうちから食べさせてしまうことから、素材の味がわからない。小学校入学までに、味覚が決まってしまうのではないかと心配。 また、家で食事を食べられないという子ども達がいるという。子ども食堂の問題もあると思っている。（農業協同組合）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども達の様子を通して、家庭の状況が想像できる。（廣田会長）</li> <li>○ 今の親世代が、食育推進の中で少し抜け落ちてしまった年代ということかもしれない。少しでも親になったときというにつながっていける様な施策が必要である。（廣田会長）</li> </ul>

	内 容	委員から出された課題	まとめ及び方向性
1 食を育む環境づくり	○親世代への食の関心を高めることについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼稚園児に対する食育に取り組んでいる。親子に食育の教室をする機会もあるが、親の方が目を輝かせて「へー、そうなんですか」と感心している。こういう状況を見ると、やはり、親へ教育することの大切さを感じる。小学生や幼児に、いくら食事の大切さを伝えても、子ども達が実践するのは難しい。食事を作るのは親であり、小さいうちは、子どもが親へ伝えるのも難しいことだと思う。(栄養士会)</li> <li>○ 子どもたちが朝食を食べないではなくて、食べられない、朝食が用意されていないということが悲しい。親への指導や家族への指導がとても大切だと思っている。(食改)</li> <li>○ 親子農業体験といって、ソバ、サツマイモや花を育てたり、収穫して、一緒に料理をして食べたりしている。その時、おかあさんや、おじいちゃん、おばあちゃんがついてくれるのを見ると、子どもたちは大勢の人たちに育てられているんだな、とつくづく感じる。ソバがとれれば、ソバ粉を使ってクレープやすいとんなど、いろいろな料理をする。そうすると、お家に帰って子どもたちが、料理に手を出すようになるという。少しずつお母さんのお手伝いをしながら成長していくのかなと思う。私は今、蚕を飼っているが、私の地域では果樹地域なので桑に消毒がかかることがある。桑のいい悪いによって大きい繭になったり、小さい繭になったりする。同じように、しっかり食べないと心や体の成長も違うのかなと思う。(農村女性ネットワーク)</li> <li>○ みんな食育を一生懸命やっているが、なかなか伝わっていないか。わかりやすく、県民へ啓発することが大切。例えば、親子とかグループなどへ伝えるシンボル的なものを作り、それに、食育を結びつけていくとよいと思う。(医師会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域のボランティアの方たちの取組が、これに参加される皆さん、いずれは担い手となっていくような、拡がりがみられるといい。(廣田会長)</li> </ul>
	○市町村食育計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町村で食育計画を策定している割合は、低くなっている。小さな町村では、栄養士が1人しかいない場合が多い。栄養士が1人で大きな計画を立てていくのは大変だと思うので、県で支援していただけだとやりやすい。計画策定の方法はいろいろあると思うが、工夫しながらそれぞれの市町村で計画を策定していくといいと思う。(松本市)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食育(栄養)は、間口が広い分野で、捉え方も多様である。皆さんがいろいろな切り口でやっているが、何かシンボル的なものがあるといいと思う。(廣田会長)</li> <li>○ 計画を独自に作るのは難しいという状況もあるので、他の部局と連携しながら、また県の支援で少しでも進むとよい。(廣田会長)</li> </ul>

	内 容	委員から出された課題	まとめ及び方向性
2 未来を担う子どもの食育	○児童生徒が食事を準備できるスキルを身に付けることについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちにとって食事は楽しいものであり、食べることが大好きである。学校では総合学習の時間など様々な場面で、献立の立て方や調理などを実践する機会があるので、それを家庭に帰ってできるとよいと思う。休みの日に親子で料理と一緒に作って味わう、そこで親子関係を構築したりする。食事を準備できるスキルを身に付けるためには、家庭での日々の実践を通してできるとよい。給食を始めとしたいろんな場面を活用して、バランスのよい食事を知る機会ができるとよい。(栄養教諭・栄養職員部会)</li> <li>○ 小学校だったら1食分を、中学校だったら1日分の食事を、実際に作ってみることでバランスの良い食事というのはどういうものなのか、体験を通して記憶に残るのではないかと思う。(公募委員)</li> <li>○ 主食・主菜・副菜・汁物・牛乳乳製品があるという給食は、バランスのとれた食事という認識を持っている。家庭に帰るとお母さんに「今日はどうして副菜がないの?」と言えるように、給食がバランスのとれた食事だということを教えていくとよいと思う。(公募委員)</li> <li>○ スキルを磨きながら、楽しさ、知識のこと、技術のこと、自信を持つということ、褒められるということなど体験の繰り返しが大事だと思う。子ども達が日記に書いたことを、学級便り等にして、お家の方に読んでもらって、実践していない親たちが刺激される、そういう繰り返しの機会を設けていくことが大事。(小学校長会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども達への食育は学校では、きちんと行われているので、子ども達から家庭へというルートをどう充実させるかということが重要である。(廣田会長)</li> </ul>
	○高校生への食育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生への指導を今年から始めた。まだ受け入れてくれる学校は少ないが、高校生はすごく興味を持ってくれている。担当の先生から、長野県の食の状況を高校生に伝えてほしいという依頼のあった高校に、ACEプロジェクトの説明をしたら大きな反響があった。理解ができる年代へしっかりした指導をすること、これから社会にはばたいていく子どもたちにその段階でしっかりと伝えていくことが大事だということを感じた。(栄養士会)</li> </ul>	
	○学校の職員への食育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の職員自身に食の大切さを理解してもらうことも課題である。(小学校長会)</li> <li>○ 学校の先生の中にも、ご飯を食べてこない人たちが多いので、生徒指導するならば、先生にご飯をちゃんと食べてくるように働きかけたほうがよいのではないか。(栄養士会)</li> </ul>	

	内 容	委員から出された課題	まとめ及び方向性
3 健康づくりと食育	○朝食欠食について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝食欠食について、私の周りでも一人暮らしの友人がいるし、朝食を欠食してくるという人もいるので理由を聞いてみると、「朝は忙しくて時間がない」、「学校の生活が忙しいからなるべくたくさん休みたい」「お昼まで食べなくても大丈夫」ということだった。(公募委員)</li> <li>○ 若者は、食事の写真をSNSに載せたり、自分で作った食事がきれいにできた時に、友だち同士で見せ合ったりすることがある。朝食欠食の対策としては、県でも「こんなメニューがありますよ」とか「朝こんな簡単なメニューがあるので作ってみたらどうですか」と広めしていくと、若い世代の朝食欠食が改善に向かうのではと思った。(公募委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 20代の欠食と40代のそれは要因が違うのではないかと思う。県民健康栄養調査でデータが出ているのであれば、それを踏まえて対策を論じていくといいのではないか。(廣田会長)</li> <li>○ 若い世代にアピールするには、SNSのようなツールも必要なのではないか。県も若い人へのアピールをしていくことを検討と聞いているが、ACE弁当などを買おうというという意識が後ろ向きになっているように思うが、なにかインセンティブがあるとよいかもしれない。(廣田会長)</li> </ul>
	○高齢者の食育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若者、働き盛り、高齢者という年代によって食育の内容も変わってくる。その中の新しい言葉で「フレイル」があるが、これに取り組んでかなければならない。自立、虚弱、介護というそれぞれの段階で、栄養・運動・社会参加の3つが関係してくる。噛むための機能として口腔ケアも大事になってくる。(医師会)</li> <li>○ メタボと同じくらい口コモとかフレイルも重要なと思う。(廣田会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 65歳以上は、今まであまり食育という視点で、取り上げられなかった年代かと思う。低栄養の予防という取組が可能であれば、考えていけばよいのではないか。(廣田会長)</li> </ul>
	○子どもの健康について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育園や幼稚園における栄養状態のデータを小学校で把握できていない。保育園や幼稚園からの栄養状態をきちんと小学校に引き継ぐことが重要である。(医師会)</li> </ul>	

	内 容	委員から出された課題	まとめ及び方向性
4 信 州 の 食 の 理 解 と 継 承	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事食の継承について</li> <li>○食品ロスについて</li> </ul>	<p>○ 行事食を食べるという視点からだけではなく、まずは、行事そのものをやろうと計画している。例えば、戦前から正月には数の子を食べる。数の子の親はニシンであることは誰でも知っている。ニシンは「二親」と書く。親を大事にするということが行事食の素晴らしい意味である。こういうことが1年365日あり、小さいうちから教えていくことが大事だ。現代人は、無駄を省いてきたが、もっといい意味での無駄をする必要があるのではないか。嫌いな物でも、頭の中に記憶が残っていく。それが刺激されて、ある日突然、生姜やわさびが食べられるようになる。嫌いだから、食べないから、無駄だから食卓に出さないのでなくて、日頃からこういうことを親への教育の中していく必要があるのではないか。(調理師会)</p> <p>○ 地産地消はやっているが、食文化が伝わっていない。地産地消は大事であるが、同時に地域によっていろいろな文化があるので、これを取り上げて伝えたい。(調理師会)</p> <p>○ 学校給食でも時期に応じた行事食を提供している。家でもやっていただけるとよい。また、中学でも地域の方に教えていただきながらおやきづくりをするとともに、「このおやきの中身がおいしかった」と道の駅で紹介するなどの、発信をしている。(栄養教諭・学校栄養職員部会)</p> <p>○ 保育園に協力してもらい環境教育をしている。また、市内全ての小学校3年生に対して教育政策課で環境教育を実施している。保育園での取り組みは3Rということでリサイクルだが、小学校に比べると、保育園の方が親への啓発ができ、保護者の意識の変化が大きいという結果が出ている。(松本市)</p>	<p>○ 行事そのものを拡がりの中でとらえて活動していくことが必要かもしれない。家族形態等に沿った多種多様な働きかけということが必要かと思う。(廣田会長)</p> <p>○ 松本市の食育推進計画には、「3010運動」「毎月19日は手作り料理を楽しむ」といった具体的な行動に結び付つく、頭に残るキャッチコピーがある。キャッチコピーがあるとみんなの意識が変わる。(廣田会長)</p>